

懐かしの「あびこ」界限

大阪に行った折に地下鉄御堂筋線の「あびこ」まで行った。30 数年前の大学院時代に、駅界限をよく歩いたものだ。「すし常」という看板を見つけ懐かしかった。朝早かったので、残念ながら店は閉まっていたが、営業しているようで嬉しくなった。貧乏院生ながら、バイト収入が入ると店に行った。威勢のいい若い主人と懇意になり、いつも「おまけ」してもらった。親父の還暦祝いに大きな鯛を格安で焼いてもらって持参したら、珍しく親父が喜んでくれた。



我孫子観音あたりを
通って、JR 阪和線の
「我孫子町駅」の方に向
かう。駅前のマンション
2階が新婚時代の新居で



あった。昔とあまり変わっておらず、懐かしさがこみ
あげてくる。いまでも営業している「八百」という中華
料理屋の真上であり、調理の音や特有のにおいが忘れ
られない。マンションのすぐ前に居酒屋やパチンコ店
があり、いろいろ「誘惑」が多かった。



阪和線が高架となり、駅も大きく綺麗になった。当時は踏み切りを渡っていたと思う。この駅で懐かしいのが、駅員さんがマイクで「あびこちょう***」などと独特の節回しで案内していたことだ。どの駅も肉声で案内しており、となりの「すぎもとちょう」や「びしょうえん」それに「つるはし」などの案内がユニークで面白く、ゼミコンパの余興として披露したものだ。滅多に褒めてもらえなかったが、宮本先生から「お褒めの言葉」をもらったことが記憶に残っている。

(2009年6月17日 記)